

臨床研究のご説明

有料老人ホームにおけるポリファーマシー改善の試み

これから、この研究の内容について説明しますので、参加して頂けるかどうか、ご本人の自由な意思で決めてください。例え、参加されなくても不利益になることはありません。

1) 研究の目的・意義

介護施設に入居する高齢者の問題のひとつにポリファーマシー(たくさんのお薬を服用している中に不適切なお薬が含まれていたり、必要なお薬が不足していたりすること)があります。このポリファーマシーの原因としては、高齢化による複数の疾患・症候の合併とそれに伴う複数診療科・医療機関の併診や、お薬の副作用に対するお薬や、老年症候群に対するお薬が処方されることなどがあります。介護施設に入居する高齢者がより安全に生活するためには、その介護施設で訪問薬剤管理指導を実施している薬剤師が入居者のポリファーマシーを改善する必要があると考えられます。

今回、有料老人ホーム「そんぼの家」の入居者に対して、薬剤師が「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015__高齢者の処方適正化スクリーニングツール」を用いてポリファーマシーがないかどうかを確認します。そして、医師に提案したお薬の改善案の数や、入居者が服用しているお薬の数や入居者の満足度の変化から薬剤師のお仕事を評価します。

2) 研究の方法

- ① この研究に対して同意の得られた方に、まず、体調(食事や排便、睡眠、運動などの状況)と現在の生活に対する満足度をお伺いします。この聞き取り調査は、最初の調査月から3か月後、6か月後、1年後にも行います。
- ② 入居者が使用している、もしくは持参した薬剤を「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015__高齢者の処方適正化スクリーニングツール」を用いて、注意して使う必要があるお薬や不足しているお薬を確認します。注意して使うお薬が含まれている場合には、もっと安全な薬がないか確認して医師に連絡します。また、不足している臆薬がある場合も医師に連絡します。さらには、注意するお薬を服用しなければならない場合には、定期的にお伺いして副作用が現れていないか確認します。

3) 研究への参加とその撤回について

この研究への参加は、本人の自由意思によるものであり、同意した後でも、同意をいつでも撤回することができます。拒否・撤回をしても、不利益を被ることはありません。

4) 個人情報の保護について

個人情報の取り扱いには十分注意し、情報の紛失や本研究の参加者個人が特定されることを防ぐため、アンケート調査データは、愛知学院大学薬学部臨床薬剤学講座において、それぞれパスワードを設定したファイルに記録し、USBメモリに保存して、鍵のかかるキャビネットに保管します。そのため、第三者が同講座の職員やデータベースへの不正アクセスを介さずに、直接参加者を識別できる情報を閲覧することはできません。

5) 研究結果の公表について

この研究で得られた成果は、国際・国内学会発表や論文発表を予定しております。その際、個人を識別できる情報は一切含みません。

6) 研究を担当する薬剤師および健康被害が発生した場合の連絡先

この研究のことで何かの分からないことや心配なことがありましたら、いつでも、こちらに記載されている薬剤師または相談窓口にお尋ねください。

研究責任者(薬剤師): 准教授・長田孝司(おさだたかし)

研究分担者: 教授・山村恵子、講師・渡邊法男

連絡先: 052-757-6766 (愛知学院大学薬学部臨床薬剤学講座)